

令和4年度長崎北高等学校 学校評価アンケート

1 評価が高い項目（4, 3, 2, 1 の4段階評価の平均が3.3以上）

*は今年度新項目

	項目	数値	前年比
生徒	北高は、生徒の病気や事故に適切に対応している。	3.3	0
	北高は、朝の読書にしっかり取り組んでいる。	3.3	-0.1
	私は、充実した高校生活を送っている。	3.3	-0.1
	私は、学校行事に積極的に参加している。	3.4	-0.1
	私は、授業を意欲的に受けている。	3.3	*
	私は、容儀や服装に常に注意を払っている。	3.3	-0.1
	私は、挨拶がきちんとできている。	3.3	*
	私は、掃除にきちんと取り組んでいる。	3.4	+0.1
	私は、常に周囲や相手のことを思いやって行動している。	3.3	-0.2
	北高は、教育に必要な施設や設備が整っている。	3.3	-0.1
	北高は、学校生活を送る上で安全・安心な環境である。	3.4	0
保護者	子どもは、充実した高校生活を送っている。	3.3	0
	子どもは、学校行事に積極的に参加している。	3.4	0
	子どもは、適切な時間に帰宅している。	3.3	-0.2
	子どもは、挨拶がきちんとできている。	3.3	*
職員	学校経営の方針（目指す学校像・育成したい生徒像）が明確である。	3.4	+0.4
	学校行事や生徒会活動、部活動への積極的な参加を後押ししている。	3.4	+0.1
	悩みや不安を持っている生徒に対して適切な対応を行っている。	3.4	+0.1
	いじめの早期発見や防止に向けて、組織的な対応を行っている。	3.5	+0.3
	生徒の疾病や事故に迅速・適切に対応している。	3.6	-0.1
	生徒がいつでも学習できるような教育環境を整えている。	3.3	-0.1
	保護者からの相談に対して、丁寧に対応している。	3.4	+0.1
	HPや「北高News」を通じて、適切に広報活動を行っている。	3.3	+0.3
	P T A活動が保護者の理解と協力を得ており、適切である。	3.3	+0.3
	必要に応じて地域や校外機関と連携し、教育活動の充実に努めている。	3.3	+0.6

2 評価が低い項目（4, 3, 2, 1 の4段階評価の平均が2.8以下）

	項目	数値	前年比
生徒	北高は、生徒一人ひとりの能力に応じた適切な学習指導を行っている。	2.8	0
保護者	「個の能力に応じた学習指導」「職業の指導」「個々への進路指導」	2.9	参考
職員	「清掃活動や教室の整理整頓」	2.9	参考

3 令和4年度重点目標とアンケートの状況

(1) 確かな学力の育成

- ① 自学を支援し、主体的で持続的な学習態度を養う。
- ② 「振り返り」を徹底し、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る。
- ③ 「問い」の質を追求し、思考力・判断力・表現力を養う。
- ④ ICT活用も含めて不断の授業改善に努め、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。
- ⑤ 朝の読書や総合的な探究の時間を通じて、生涯にわたる学びの基盤を養う。
- ⑥ 観点別評価を研究し、指導と評価の一体化を図る。

- 「家庭学習に意欲的に取り組んでいる」の項は【生徒3.0、保護者3.0】であり、学年が進むにつれて数値は向上しているが、1年次から進路意識に基づき主体的に学習する姿勢を育てたい。
- 「わかりやすく質の高い授業を行っている」の項は【生徒3.0】であるが、【職員3.2】であり、「教科内で学年を超えた連携を図っている」の項は【職員3.2】と授業改善の意識は高まってきている。一人一台端末の有効活用、深く考えさせるための「問い」の追求など、職員相互の授業見学や研究授業後の意見交換を通して、一層具体的に改善を図っていく。
- 「朝の読書活動の取り組み」の項は【生徒3.3、職員3.1】と評価は高いが、経年比では微減である。図書館利用促進に向けた新刊案内や県立ミライon図書館との連携などを行っている。
- 「生徒一人ひとりの能力に応じた学習指導」の項は【生徒2.8、保護者2.9】と例年同様低い。指導と評価の一体化をめざして観点別評価の研究を進めるとともに、評価法の周知を図りたい。

(2) 豊かな心の育成

- ① 「生徒ができることは生徒に任せる」ことを徹底し、主体性を育む。
- ② すべての教育活動で協働を促し、互いに認め合い高め合う態度を育む。
- ③ 社会人としての常識やマナーを身につけさせ、北高生としての品性と誇りを育む。
- ④ 人権教育や美化活動を通して、思いやりや感謝の心、公共心・公德心を育む。
- ⑤ 生徒一人ひとりの「両道顕揚」を支援し、自主・自律の精神を育む。
- ⑥ 18歳成人への対応を体系化し、社会への自主的な参画意識を育む。

- 「学校行事に積極的に参加している」の項は【生徒3.4、保護者3.4】、また、「充実した高校生活を送っている」の項も【生徒3.3、保護者3.3】と高評価である。コロナ禍ながらも、生徒たちが主体的に活動しようとしていることがわかる。今後も「生徒ができることは生徒に任せる」を共通理解としてサポートをしていきたい。
- 一方「生徒会活動が活発である」の項は【生徒3.0、保護者3.0】であり、コロナ禍が一定収束した後の活動活性化に向けた工夫が必要である。
- 「容儀・服装、挨拶」の項は【生徒3.3、保護者3.2、職員3.1】と良好な評価である。「清掃活動の取り組み」の項は【生徒3.4、保護者3.2、職員2.9】であり、今後とも、自ら気づき実践に移すことのできる、品性や公德心を備えた生徒を育てていきたい。
- 「常に周囲や相手のことを思いやって行動している」の項は【生徒3.3】と良好な評価である。昼食時の始めの20分間を黙食の時間としているが、生徒たちは非常に協力的である。
- 「学習と部活動の両立をよく支援している」の項は【生徒3.0、保護者3.1、職員3.1】であり、適切な部活動計画を提示するとともに、生徒の実態に目を配り対処していく必要がある。

(3) 保護者及び地域の期待に応え得る学校づくりの推進

- ① 低学年からの計画的かつ組織的な進路指導を展開し、全生徒の進路実現を図る。
- ② 自己理解と社会理解の深化に努め、個に応じた進路指導の充実を図る。
- ③ ふるさと教育を推進し、郷土愛と郷土に対する貢献心を育む。
- ④ つがの木タイム・北高祭・北高メディア等、特色ある教育活動の充実及び深化を図る。
- ⑤ HP・「長崎北高NEWS」・メールメイト等で、適正な情報発信と情報公開に努める。

- 「面談等を通じてのきめ細やかな進路指導」「将来の職業に関して具体的に考えさせる指導」「学年に応じた適切な進路情報の提供」等の進路指導は【生徒、保護者、職員ともほぼ3.0】である。一昨年度から1年生を対象に始まった県内企業説明会、今年度から始まった「ふるさと教育（総合的な探究の時間と連動）」などを通して職業観の育成を図っていく。「総合的な探究の時間に主体的に取り組んでいる」の項は【生徒①年3.2, ②年3.2】と良好である。
- コロナ禍のために海外語学研修は実施できていないが、北高祭は規模を縮小したものの実施ができ（体育祭は保護者への公開も実現）、特色ある教育活動を継承することができている。
- 「HPや北高Newsを通じて適切に広報活動を行っている」の項は【生徒3.0、保護者3.1、職員3.3】で、課題としてはHPの更新回数を増やしていくことである。

(4) 安心・安全な教育環境の充実

- ① リスク管理に努め、安心・安全な教育環境の整備に努める。
- ② 観察や面談を通して生徒理解に努め、早期からの個に応じた支援の充実を図る。
- ③ 保護者やSC・関係機関等との連携を図り、組織的な生徒支援体制の充実を図る。
- ④ 健康安全教育と保健管理に努め、健康の維持・増進や安全意識の向上を図る。
- ⑤ 基礎体力の向上に努め、心身ともに健康かつ逞しい生徒を育成する。

- 「北高は、教育に必要な施設や設備が整っている」の項は【生徒3.3、保護者3.2】、また、「学校生活を送る上で安全・安心な環境である」の項は【生徒3.4、保護者3.2】と、ともに高評価である。今後も保健主事の呼びかけによる校内点検を定期的の実施するなど安心・安全な教育環境の整備に努めていく。
- 「北高は、生徒の病気や事故に適切に対応している」の項は【生徒3.3、保護者3.2、職員3.6】といずれも高評価となっている。
- 「生徒の心の不安や悩みへの適切な対応」の項は【生徒3.0、保護者3.0、職員3.4】である。今後も学期ごとに実施する悩み調査のほかに、相談室だより等を通じて対応の窓口を周知するとともに、教員自身が相談されやすい雰囲気をつくるよう努める。
- 「いじめの早期発見や防止に向けた対応」について、敏感かつ組織的な対応の研修を行ったこともあり【職員3.5】と大きく向上した。一方、【生徒3.0、保護者3.0】であるので、「学校いじめ防止基本方針」の周知を図り、実効性ある対応を行いたい。

4 学校関係者からの意見・助言等

- 学習に部活動、行事、探究活動を4つの柱に、バランスのよい人材育成と魅力ある学校づくりを今後とも推進してほしい。いろいろな生徒の状況に目を向け、「まじめな生徒が高校生活を楽しめる学校」であってほしい。
- 校舎見学をして、非常に整った教育環境だと感じた。地域の中学生にとって北高生は身近な“あこがれ”である。学習する姿、部活動に励む姿を今後とも示してくれる存在であってほしい。また、自学室などを含めた充実した教育環境や北高生の活躍について、地域への情報発信にも期待する。
- バスの乗降および近隣のバス停の利用状況について、かつては地域住民からの苦情が聞こえていたが、この1、2年で改善指導が行き届き、苦情を耳にすることが無くなった。
- 学校評価アンケートで、「生徒一人ひとりの能力に応じた適切な学習指導がなされている」の評価が低めであるのに対して、生徒の「私は授業を意欲的に受けている」は高評価となっているなど、回答する生徒・保護者の感覚や判断基準がどのようなものであるかを分析して、対応・改善されるとよいと思う。
- 「安心・安全な教育環境の充実」について、近年は学校であっても「いつ、何が起こってもおかしくはない」状況である。不審者の侵入などに対する学校側の危機管理とともに、生徒たちの意識の育成も必要なのかもしれない。
- 世界ではウクライナでの戦争の長期化や政権間の紛争が心配される。長崎市内の学校として「平和教育」の視点も大事にしていなければならないと思う。
- 市内の学校で制服の見直しの動きがあると耳にする。LGBTQへの対応や、地元の中학생から選ばれる学校であるためにも、創立60周年を迎える時期に合わせて、制服の見直しに向けた検討を進めてみてはどうか。
- 生徒数はかつてよりも減っており、部員数を確保できない部もあるのではないかと。また、先生方の働き方改革等で部活動の統廃合が話題になると思うが、校是『両道顕揚』の実践のためにも出来るだけ部の数は維持してほしい。

5 学校側の取組

- 学習、部活動、行事、探究活動といった「学校らしい」部分に生徒が全力で取り組み、「送り出したい生徒像」に基づいて教職員が生徒を全面的に支援する学校づくりを推進していく。ICT等を活用したより細やかな学習・進路指導を進め、保護者や地域住民、広く県民から評価される学校づくりに努める。
- 探究活動は、地元への理解を深め郷土愛を育む「ふるさと教育」と連動して取り組んでおり、今後も地域自治体・企業等や同窓会・PTAなどの関係団体との連携を強化していく。
- 女子へのスラックス導入など、制服の在り方について検討を始めたところである。また、校則について見直すべき点はないか、生徒指導部や生徒会役員で検討を進めている。部活動の統廃合は、ルールを決めて慎重に進めていく。